



近畿はひとつ

近畿ろうあ連盟機関紙

2025年度No.1
2025年3月31日発行
発行／近畿ろうあ連盟
編集／機関紙編集委員会

ごあいさつ

本年度もよろしくお願い申し上げます。昨年度を振り返ると、社会面では優生保護問題の解決に向けての大きな一歩や生野ろう学校児童事故事件逸失利益裁判にかかる支援運動に尽力していただいたこと、内部面では会員減少の影響を受けグッズ販売活動に協力いただいたことに感謝申し上げます。本年度はデフリンピックの年でもあり、デフスポーツが盛り上がるようより一層、「近畿はひとつ」を合言葉に頑張っていこうではありませんか。

近畿ろうあ連盟 委員長 辻 久孝

組織部 会員拡大、日本聴力障害新聞、季刊みみ、全国手話研修センター状況

登録会員数集計（2025年3月31日現在）

日本聴力障害新聞（6月13日までに拡大を）

近畿ブロック	2023年度	2024年度	増減
大阪聴力障害者協会	1,001名	1,001名	0
兵庫県聴覚障害者協会	603名	600名	-3
京都府聴覚障害者協会	494名	470名	-24
滋賀県ろうあ協会	276名	271名	-5
和歌山県聴覚障害者協会	259名	267名	+8
奈良県聴覚障害者協会	218名	218名	0
合計	2,851名	2,827名	-32

都道府県	目標数	10%UP 目標数	2024年 3月31日	2025年 2月28日	10%UP 達成率
滋賀	252	138	117	124	90%
京都	474	377	318	302	80%
大阪	1,588	865	738	748	86%
兵庫	1,006	655	543	535	82%
奈良	253	251	220	201	80%
和歌山	182	95	81	76	80%

【会員拡大】

和歌山県聴覚障害者協会が全国ろうあ者大会を成功させ、会員拡大につないでいます。奈良県聴覚障害者協会、大阪聴力障害者協会も増減こそありませんが、昨年度会員数を維持しています。今年度も一人でも多くの入会呼びかけをお願いします。

【日本聴力障害新聞】

手話通訳者等養成講習会での副教材としての購読、手話講習会講師、県理事、地域役員が購読しているかどうか確認を！手話欧州会や手話サークル等で教材として使用。県登録手話通訳者への購読促進等延ばしていきましょう！

全国手話研修センター後援会 2024年度会員（2025年3月31日現在）

季刊みみ読者拡大状況

府県	合計	ろう者	聞こえる	その他	目標	進捗
滋賀県	45	17	28	0	170	26.5%
京都府	208	58	150	0	330	63.0%
大阪府	321	168	151	2	750	42.8%
兵庫県	197	80	117	0	430	45.8%
奈良県	162	56	106	0	140	115.7%
和歌山県	106	62	44	0	130	81.5%
計	1,039	441	596	2	1,950	53.3%

都道府県	目標数	2025年 2月28日	達成率
滋賀	126	16	13%
京都	237	58	24%
大阪	794	121	15%
兵庫	503	136	27%
奈良	126	37	29%
和歌山	91	39	43%

【全国手話研修センター後援会】

奈良が目標数を突破しています。進捗50%未満（滋賀、大阪、兵庫）は50%を超えるよう入会呼びかけの取り組みをお願いします。

【季刊みみ】

A4サイズに代わってから誌面が読みやすくなっており、会員に勧めましょう。手話通訳者等養成講習会や手話奉仕員養成講座の受講へ購読を働きかけるといった動きがみられます。

近畿ろうあ連盟役員(2024年度～2025年度)体制

辻委員長体制で近畿の舵取りを務めています。2025年度もよろしくお願いします。



前列(左から)勝矢教育対策部長(大阪)、嘉田副委員長兼組織部長(兵庫)

後列(左から)大平高齢部長(大阪)大橋手話対策部長(大阪)岡本事務局長(奈良)

上田監事(奈良)辻委員長(滋賀)古体育部長(兵庫)吉野会計部長(兵庫)河井監事

(京都)辻山福祉労働対策部長(和歌山)北居青年部長(京都)森本女性部長(和歌山)

第1回近畿ろうあ者パークゴルフ大会(京都・須知公園)が開催される

令和6年10月25日(土)京都府聴覚障害者協会高齢部の主管で第1回近畿ろうあ者パークゴルフ大会が開催されました。参加されたのは大阪府26名、京都府11名、兵庫県5名、奈良県5名、滋賀県2名、和歌山県2名の初心者を含む男女、総勢51名の愛好者です。近畿や全国のパークゴルフ場での遠征や大会に出場され上位入賞をされている方もおられ、



難関の須知公園でも素晴らしいスコアを出されていました。何よりも皆さんの笑顔のラウンドが最高でした。そして、手話のコミュニケーションとサポートされる手話通訳者の立ち振る舞いなど手際のよい大会運営に組織の成熟度を感じました。参加された皆さんに、感謝を込めて大会成功の拍手をお送りします。会員一同、またのお運びをお待ちしています。

女性部大学習会

2024年7月13日(土)、大阪府堺市総合福祉会館で、14時～16時まで、冬季デフリンピック競技大会が、今年2月29日～3月11日トルコ・エルズルムで開催され、兵庫県からカーリング選手として出場した長澤理佐子さんを招いて「デフカーリングを始めたきっかけやトルコ冬季デフリンピック出場へ」～自・分・再・発・見～を講演していただきました。参加人数は38名。長澤さんは兵庫県女性部役員と近畿ろうあ連盟女性部代議員とカーリングの選手強化合宿で特訓などお話をなされたことをすごいと思いました。



◎第54回近畿ろうあ女性フォーラム

2024年7月14日(日)、大阪府堺市総合福祉会館で10時から16時まで、式典、3分科会、全体会で、各地参加人数は99名でした。



第一分科会「女性の権利と活動」～優生保護法とこれからの若い世代に～

第二分科会「豊かな老いを考える」～100歳まで生きよう!～

第三分科会「ワークライフを考える」～今後の働き方を考える～で討議を進めました。

逆転勝訴を勝ち取る！！～大阪高等裁判所判決～

1月20日、大阪高等裁判所（以下、大阪高裁）より、大阪府立生野聴覚支援学校前で2018年2月日に重機にはねられ亡くなった井出安優香さん（当時小学5年生）のご両親が、加害者と建設会社を相手にした民事裁判の判決が出ました。

判決は、逸失利益（生涯の収入見込み額）の減額はなく、平成30年の全労働者の平均賃金の100%を基準とするという内容となり、逆転勝訴となりました。

この裁判において、加害者側は井出安優香さんの聴覚障害を理由に、逸失利益の基礎収入をきこえる女性労働者の平均賃金の40%を基準にすべきと主張していました。

2023年2月27日の大阪地裁判決では、「聴覚障害者が社会で働くには、明らかにきこえる人との差がある」とされ、逸失利益は全労働者の平均賃金の85%にされ、これを不服としたご両親が大阪高裁に控訴していました。

大阪高裁の判決は、「将来、きこえる人と同じ職場で同じ条件で働くことができると考えられ、労働の能力に制限があるとはいえない」と判決を下しました。社会的障壁は社会全体で解消していくという社会モデルの視点にたった判決であり、両親をはじめ、支援を続けてきた（公社）大阪聴力障害者協会関係者も喜び合いました。

今回、大阪高等裁判所に対する署名は、最終的に28,553筆となりました。



旧優生保護法の全面解決を目指して

補償法による補償金申請開始

補償法（旧優生保護法に基づく優生手術を受けた者等に対する補償金等の支給等に関する法律）が昨年10月7日衆議院・8日参議院で可決成立したことに伴い、今年1月17日より申請受付が都道府県で開始しました。

補償法の内容（請求は2025年1月17日開始）		申請期間5年間
本人	補償金1,500万円	一時金320万円（未受給の場合）
配偶者	補償金500万円	人工妊娠中絶200万円

「きこえない・きこえにくい人の強制不妊手術等被害者への支援について」

すべての被害者の人権回復を図り、補償を受けれるようにするためには、そのため新たな被害者の掘り起こしが重要です。きこえない・きこえにくい人が申請できるよう近畿各府県協会の取り組みが重要です。

全面解決に向けた課題として

- ①社会に根強く残る優生思想の打破！
- ②被害者に対する偏見差別のない社会の実現！
- ③誰もが人間としての尊厳を守られる社会に！
- ④障害者権利条約の実質化に取り組むために共に歩んでいきましょう。

ここからが本当のスタートとなります。



青年部

(1) 第56回近畿ろうあ青年研究討論会 in 滋賀

2024年9月21日(土)～22日(日)に滋賀県大津市にて開催しました。記念講演では、石野富志三郎氏を講師に招き、「きこえない、話せない苦しみと向き合う力そして手話はいのち～私たちが望む世代へのメッセージへ」をテーマに講演いただきました。私たち青年に対して大切なことを幅広く語っていただきました。そして、「入門」「手話言語」「スポーツ」の3分科会に分かれて、様々な意見を交わしながら討論を行いました。

(2) 第40回近畿ろうあヤングフェスティバル in 兵庫

2024年8月17日(土)に兵庫県神戸市にある六甲山アスレチックパークにて開催しました。バーベキューを通して交流を深めたり、グループに分かれてクイズを楽しみました。



(3) 第74回近畿ろうあ者大会 in 和歌山「青年のつどい」

10月5日(土)、近畿ろうあ者大会の昼休みの時間を利用して「青年のつどい」を開催しました。青年のつどいでは高齢部との交流を目的に毎年開催しています。今年度も高齢部と交流を深めることができました。

(4) 代議員企画

11月30日(土)に大阪にあるボウリング場で代議員企画を開催しました。代議員企画とは2023年度からスタートしている新しい試みのひとつで、近畿6府県青年部の代議員がつどい、企画を立案そして運営を通して互いに学び合い交流を深める機会としています。今年もそれぞれの地元でのやり方などを互いに試行錯誤しながら工夫されていました。参加者から楽しかったという声があり、また来年度も立案と運営をしたいという代議員の声もありました。

(5) 茶話会

近畿6府県青年部と気楽に交流できる場としてオンライン茶話会を夏と冬に開催しました。会員拡大の取り組みのひとつで、この茶話会では非会員の参加も可能としています。何人か非会員の参加が見られました。いくつかテーマを決めて気楽にお話できました。

近畿専従職員研修会

10月30日(木)～11月1日(金)、2024年度近畿専従職員研修会が開かれ13人が参加しました。

30日は、泉州聴覚障害者センターなんなんを見学。施設長による施設説明があり、新しくて天井が高く、作業している入所者たちが和気あいあいと働いている姿が素晴らしかった。その後、近くの市民福祉センターに移動し、吉見剛二氏による「大阪の聴覚障害者施設の建設運動」講義がありました。夜は奥水間温泉で交流し。2日目はなかまの里を見学しました。



近畿ろうあ者労働福祉フォーラム

2024年11月9日(土)10時から15時まで、京都府立医科大学付属図書館 AV ルームにて、第13回近畿ろうあ者福祉労働フォーラムを開催致しました。近畿6府県からろう者16名、聞こえる人3名(京都10名(内聞こえる人3名)、滋賀2名、奈良2名、兵庫2名、大阪1名、和歌山2名)参加されました。基調報告の後、メイン講演「ダイバーシティ ろうにとって働きやすい環境とは」を始めました。

講師の京都労働局職業安定部職業対策課 課長補佐 麻田淳嗣氏がハローワークの業務、京都府内の民間企業における障害者雇用状況と職業紹介状況、聴覚障害に応じた職業紹介、合理的配慮ダイバーシティの実現に必要なものなど、丁寧に話して下さい、参加者皆さん真剣に聞いておられました。午後はワークショップで「トリセツとは？作ってみよう！」で、配布された用紙に自分の障害の特性や困りごとを周囲に説明して職場で具体的な配慮の対策を相談したい内容を書いて頂いた後、参加者全員で発表しました。個性あふれるトリセツで「これは使える！」ものから「面白いね！」と多様多様な内容で盛り上がりつつ終わりました。



第51回近畿ろうあ者体育大会

5月18日（土）～19日（日）明石市、小野市、加西市において体育大会が開催され、軟式野球、バレーボール、卓球、テニス、ゲートボール、ボウリング、フットサルをはじめ、オープン競技のグラウンド・ゴルフ、ゴルフを加えた9競技が行われました。



18日（土）は明石中央体育館（バレーボール、卓球、軟式野球、ボウリング）、明石海浜公園（ゲートボール、テニス）で開会式を行い、その後、競技を開始しました。

19日（日）もグラウンド・ゴルフ（明石市大蔵海岸多目的広場）、フットサル（小野市匠台公園体育館）、ゴルフ（青野運動公苑・加西市）で行われ、熱戦を繰り広げました。



今回、オープン競技として初めてゴルフ競技とグラウンド・ゴルフ競技を実施しましたが、実行委員会がゴルフ場を探している時に、聞こえないから怪



我したら困る。緊急放送が聞こえないから困る。必ず聞こえる人がいないと困るとの理由で引き受けに消極的なゴルフ場が多く、三木市ゴルフまち推進課を知り相談したところ、青野運動公苑ゴルフ場（加西市）を紹介していただき、ゴルフ競技を

開くことができた次第です。今回を通じて、ろう者がもっとスポーツがしやすい環境づくりを進めていくよう引き続き取り組みましょう。

「第74回近畿ろうあ者大会」に400名が集まる！

10月6日（日）、和歌山県民文化会館大ホールで第74回近畿ろうあ者大会が盛大に開催され、近畿各地から会員、手話関係者など400名が参加しました。



午前中は式典と議事を進行し、式典では開催地の（一社）和歌山県聴覚障害者協会の福田美枝子会長、当近畿ろうあ連盟・辻久孝委員長のあいさつをはじめ、和歌山県福祉保健政策局障害福祉課課長・岩橋計幸様、和歌山市福祉局社会福



祉局長・北山英之様より祝辞をいただきました。

議事では会務報告、大会宣言、大会決議が近畿ろうあ連盟役員から説明があり、参加者多数で承認されました。

午後のアトラクションでは、目で聴くテレビの手話キャスター3名（水本博司氏・重田千輝氏・村上信次氏）の漫才があり会場は笑いにあふれました。福引のあと、次回開催地の京都へバトンタッチして幕を下ろしました。

第39回近畿ろうあ将棋大会

2024年7月21日(日)、ホテルビナリオ嵯峨嵐山（全国手話研修センター）で開かれ、近畿のろう将棋愛好家が集まりました。（一社）京都府聴覚障害者協会の吉田航会長の歓迎の挨拶、近畿ろうあ連盟の辻委員長の主催挨拶の後、個人A級戦、個人B級線に分かれて開始しました。団体戦も行い熱戦が繰り広げられました。その結果、団体戦優勝：大阪チーム、準優勝：京都チーム、3位：兵庫チーム。個人A級戦優勝は山原正樹（和歌山）、個人B級戦優勝は金山悦治（京都）となりました。



＜2024年度近畿ろうあ連盟幹部研修会 in 京都＞

1月25日（土）～26日（日）の2日間、近畿ろうあ連盟幹部研修会が京都府城陽市の京都府聴覚言語障害センターにて開催し、近畿6府県から86名の参加がありました。

25日は講義と報告があり、講義1「組織の活性化を図るために」（一財）全日本ろうあ連盟組織委員会委員長・藤平淳一氏、講義2「インクルーシブ教育について」（一財）全日本ろうあ連盟教育・文化委員会副委員長・櫻井貴浩氏、報告「デフリンピック・フェスティバル in 京都」（一社）京都府聴覚障害者協会・吉田理事長のお話がありました。

能登半島の現状について藤平氏は、能登半島の復興はまだ道遠しで、緊急災害でも即座に対応で



きる組織体制づくりが課題。石川は手話言語で語り合えるコミュニティの場があり、自治体の手話通訳者設置も正職・複数設置もあり、災害時においてもろう者の支援を展開しており、災害に強い組織づくりの重要性を話されました。会場で「聴覚障害者災害救援基金」募金を呼びかけ、12,435円が集まりました。

二日目は分科会討論が行われ「組織」「ろう教育」「スポーツ」に分かれ参加者から活発な意見がありました。

「組織」分科会では、災害に強い組織づくりについ

て意見交換を行いました。各府県協会の災害発生後の初動体制、アイドラゴン4を公共施設や避難所に設置する取り組み、手話通訳制度等について意見・情報が出された。

「教育」分科会では、全日本ろうあ連盟が提言する予定の「インクルーシブ教育に関する考え方」について意見交換をした。

「魅力ある聾学校をどう進めるかを入れては」「聾学校だけでなく地域の学校にも専門家が必要」「きこえの相談施設に配置された言語聴覚士が手話ができない。当事者が望む事業体制となっていない」等の意見・情報が出された。

「スポーツ」分科会では、デフリンピックの知名度向上について意見交換をした。スポーツ会員と継続的な繋がりを作ることは

は会員減少を防ぎ、かつ会員拡大にもなることから、スポーツ会員と共に盛り上げていくことは大切である認識を共有した。そこを踏まえて、いかにして取り組んでいくか等の意見が交わされた。来年は奈良県で開催します。

